

プログラム番号	09001
---------	-------

平成21年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	慶應義塾大学 理工学研究科		
②学長名	清家 篤		
③所在地	〒108-8345 東京都港区三田2-15-45		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	理工学部学生課国際担当	
	担当者氏名	竹中紀会	e-mailアドレス ic-yagami@adst.keio.ac.jp
	電話・FAX番号	045-566-1468 (電話), 045-566-1469 (FAX)	
⑤ホームページURL	http://www.st.keio.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	355 人 (うち、国費留学生 99 人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	欧州を中心とした理工系大学とのダブルディグリープログラム
②プログラムの形態	修士課程+博士課程(2+3年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が複数
④実施研究科・専攻	理工学 研究科 総合デザイン工学 専攻
	(所在地) 〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1
⑤連携大学・研究科・専攻名	理工学研究科、基礎理工学専攻、開放環境科学専攻
⑥受入れ学生数	30 人 (うち研究留学生優先配置人数: 修士5人、博士0人) (うち日本人学生数: 0 人)
⑦担当教員数	合計 78人 (うち専任: 58人、兼担: 0人、非常勤: 13人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 総合デザイン工学専攻・教授
	研究科長名 青山 藤詞郎

【3. プログラムの内容】

当プログラムの概要及び特色

- 1) 欧州トップ理工系大学とのダブルディグリー協定を通じて優秀な留学生の継続的な受入を実現する。その結果として当該域内での本学ならびに日本のプレゼンスを高め、継続的な日欧国際協調の発展を促す。
- 2) 修士・博士課程を通して、国際的通用性の高い6分野についてAO入試、講義、研究指導、学位論文制作、修了後の進路相談、宿舎ならびに日常生活支援がすべて英語のみで実施可能な体制を整えている。
- 3) 日本語、日本文化、日本の産業構造等を学ぶプログラムを用意している。
- 4) 本プログラム参加者が他地域からの留学生や日本人学生と共に学ぶことから、国境を超えた友人との出会いを促し、地球規模の問題を議論する真の国際的環境が形成される。



プログラムの内容

国際的な広い視野と深い専門知識を併せ持つ人材を輩出するためには、種々の取り組みにより大学院の国際化を進める必要があり、優秀な留学生の確保はその実現へ向けての有力な手段の一つである。これまでの日本への留学生は言語などの壁により特定の国に偏りがちであり、非漢字圏のアジア諸国や欧米先進国の学生に日本留学の魅力を高めることが重要課題であった。そのためには言語と生活習慣上の障壁を極力減らすと同時に特色のあるプログラムを提供する国際コースの設置が欠かせない。同時に、優秀な留学生との接触によって、日本人学生が世界に目を向ける機会を提供することも極めて重要である。したがって、優秀な留学生と日本人学生が日常的に触れあい切磋琢磨するしくみを実現することが求められた。こうした問題意識を背景に、慶應義塾大学大学院理工学研究科は、2003年9月に「先端科学技術国際コース」（以下、国際コース）を

開設し、国際競争力のある理工学分野のプログラムを提示することで優秀な留学生の教育に関する成果を上げてきた。

本プログラム「欧州を中心とした理工系大学とのダブルディグリープログラム」は、これまで国際コースの運用から得た経験の蓄積をもとに、特に欧州トップ大学との協調拡大と、優秀な学生の確保を推進するものである。とくに、欧州理工系大学 50 校以上で構成する T. I. M. E. アソシエーション (Top Industrial Managers for Europe、ヨーロッパのトップ理工系大学が修士レベルでのダブルディグリーを推進するための連合) の加盟校と順次 2 校間協定を締結し、欧州のスタンダードに合致した教育・研究内容を含むカリキュラムを提供する。このことで、一般入試により国際コースに入学する留学生に加えて、質の高い留学生を毎年一定数確保することが可能となる。本プログラムに参加する留学生に提供される研究分野には、従来の国際コースに設置された 6 分野に加え、2010 年度からは経営工学分野に相当するオープンシステムマネジメントプログラムを開設し、関連する授業群（英語で開講）を充実させる予定である。

提供される科目の詳細については以下のHPを参照の事。

<http://www.st.keio.ac.jp/english/admissions/index.html>

その他の特徴

ダブルディグリー生の研究指導を担当する教員スタッフの国際的研究アクティビティーの高さ
教員スタッフの検索が教員名に加えて研究・講義のキーワードでもすべてHP上にて英語で検索できるようになっている。また、本ダブルディグリープログラムを通して、日欧の距離感を感じさせない共同研究体制を完備し、学生の共同指導に関しての実績を持つ教員も増えてきている。

ダブルディグリー希望者に対するAO入試制度の整備

すべての申請書がウェブからダウンロード可能で、Web申請制度も整えたことから、入試の為に渡日する必要もなく、ダブルディグリー協定校のすべての学生が平等な立場で応募できるシステムを確立した。本人の成績・留学目的文章に加えて、これまでの交流を通じて信頼関係を確固たるものとした協定校からの推薦を特に重視し、これらを慎重かつ丁寧に網羅することから勉強・研究能力に加えて人格も重視した選考を実施している。入学審査では面接を重視することも特徴で、これまでも慶應の教員が現地に赴くか、ビデオ回線をつないだ遠隔会議システムにより本プログラム入学者全員の面接を実施してきた。このようにして選ばれた学生が集まるプログラムは英語の講義履修や欧州の言語・文化に興味を有する日本人学生にも非常に有意義なもので、また、優秀なダブルディグリー生が本国の留学候補生に本プログラムへの申請を勧めるといふ好循環が保たれている。



日本語や日本文化を学ぶプログラムの充実

近年欧米圏の若者の間で日本文化への興味は高まっており、専門分野の研究のみならず、滞在中に日本語知識を身につけることを希望する学生も多い。そのため、本研究科では日本語教育に50年以上の歴史を持つ慶應義塾大学日本語・日本文化教育センターからの教員を招聘し、あらゆるレベルの学生の要望に答える授業をキャンパス内で開催し、留学生から好評を得ている。

徒歩圏内に留学生寮を完備

キャンパスから徒歩5分の位置に本プログラム参加学生が優先的に入居できる留学生寮を完備している。本プログラムに入学する学生が希望した場合は本寮への入居が必ず認められる。2DKの民間社宅を慶應が留学生用に改造したアパートで、2DKに二人の留学生が入居するが、それぞれの寝室にはベッド・タンス・勉強机・冷蔵庫が完備されて鍵がかかる実質的なワンルームマンションで、DKや洗濯機を二人でシェアするスタイルが大変好評である。慶應義塾大学からの補助により入寮費は月々42000円程度に抑えてある。

日本人ダブルディグリー生の存在

本学から欧州協定校にダブルディグリー生として派遣された日本人学生が、現地のフランス人学生に本学や日本の長所を直接宣伝することで、多くの優秀なフランス人学生が応募するようになった。また、日本のフランス人学校（リセ・フランコ・ジャポネ）で学んで渡仏した学生が慶應にダブルディグリー生として入学するケースがすでに3件もあり、日仏文化の橋渡しとして本プログラムの活性化に大きく寄与している。

